

買ひ物双六 (大正3年)

デパートメントストア

双六には美しい絵とともに、時代の価値観が凝縮されています。そんな絵双六の世界を、ホームページ「築地双六館」館長・吉田 修さんに紹介していただく新連載。第1回は、大正3年当時の庶民の憧れ、高層デパートでのショッピングを描いた双六です。



絵双六は時代の価値観を映す鏡です。上りにはその時代の夢や憧れが表現されており、庶民の息吹が伝わってきます。日本最初の絵双六は一三世紀後半頃、天台宗の新興の僧に仏法の名目を遊びながら学ばせるために考案されました。江戸時代には、当時世界一の多色刷木版技術である浮世絵の技法で、歌舞伎・道中・名所・武者など、さまざまな双六が発行されました。明治以降は印刷技術の向上、通信販売の誕生、流通販売ルート（の確立）により裾野がさらに広がって、家庭の娯楽品として愛されました。

この買ひ物双六は、大正3年に少女雑誌の付録として作成された大正ロマンの香りのする双六です。晴れ着の家族が縁毛氈に導かれてデパートのいろいろな売り場を巡ります。動物園や植物園もあります。晴れやかでわくわくする都市生活の面がうかがえます。ちなみにこの年は、第一次大隈内閣が成立し、辰野金吾設計による東京駅が完成し、宝塚少女歌劇が第一回公演を行い、第一次世界大戦が始まった年でした。



上がり
22階のコマを経て、デパートの屋上庭園で実物が眼下を見渡すコマ上がりだ。エレベーターを使ったショートカット機能もある。



振出し
天井画のある突き出しの1階に、晴れ着に日本髪を結ったご婦人が子ども連れで入館。庶民向けの西洋風建築が珍しい時代であった。

文・監修 吉田 修

よだ・おむむ 1954年生まれ。鳥根恵祐正市出身。全国友人俳句協会常務理事、NPO キャリア発達ネットワーク広報部長、和文

教育学会会員を務める傍ら、築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取組む。公式HPは <http://www.sugoroku.net/index.html>



所蔵：吉田 修 写真：熊崎 晴

2018

12
DECEMBER

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 天皇誕生日	24 振替休日	25	26	27	28	29
30	31					